

【一般の部受賞作】

人と自然との対抗と共生：

中国雲南省怒江リス族のジップラインに関する研究

南京農業大学 雲南農業大学 総合研究大学院大学 王羽堅 諸錫斌 蘇琦恵

論文要旨

21世紀の半ば以前、中国雲南省怒江地域に在住したリス族が、植物由来のジップライン(Zip Line)を創意工夫し、怒江天険を征服した。ジップラインは、怒江地域の経済、文化、社会などの発展と変化をさせており、貴重な少数民族文化遺産でもある。しかし、社会の発展とともに、ジップラインの繩は次第に橋に取って代われ、その技術や文化の継承がなされず、忘れ去られたものとなる。

本稿では、2016年から2021年にかけて、筆者らが数回にわたって怒江地域を訪れ、現地調査、歴史文献研究、口述インタビュー、実験分析をもとに、怒江地域におけるリス族の移動手段であるジップラインを研究対象として、その誕生した背景、発展と変遷、生産過程など、総合的に研究した経緯について述べる。

第1章と第2章では、歴史的文献調査をもとに、まずジップラインの歴史的展開を明らかにし、次に怒江リス族ジップラインの構成とその渡り方を検討し、竹箎（薄く切る竹製品）、竹籐箎、スチールケーブルでできた3種類のジップラインの材料採取、滑り工具までの過程を詳細に紹介した。

第3章、第4章、第5章では、まず、現地調査、資料収集、インタビューを通じて、怒江地域のジップラインの採取、加工、製織、架設、試験といった伝統的な生産工程を紹介した。第二に、竹箎、竹籐箎、スチールケーブルで作ったジップラインのせん断力(breaking force)と引張強度(tensile strength)の実験を行い、初期のリス族によるジップラインを作る過程での知恵と科学的原理を明らかにし、少数民族の知恵が詰まった絶滅の危機にあるこの有形文化遺産の保存と保護を推進したい。第5章では、怒江地域におけるリス族ジップライン材料の変遷を切り口に、中国の少数民族地域特有の社会文化的発展と変化を明らかにした。

本稿は、怒江地域リス族の社会的発展におけるジップラインの欠かせない重要性を実証した。今中国政府が「農村振興」行動に乗り出す中、少数民族の貴重な無形文化遺産を保存し、農村の活性化に役立てるために、怒江リス族の伝統工芸であるジップラインの知恵を保存・継承する方法を提案すればと思う。また、日本の無形文化遺産や伝統工芸の保存方法についても何らかの方向性を示す研究になるのではないかと考えられる。さらに、ジップラインを世界の有形文化遺産や無形文化遺産の保護・活用・継承事業と歩調を合わせ、災害救助や冒険、観光などの機能・役割を模索することに、ちょっとした参照やアドバイスとなればと考える。

キーワード：雲南省怒江、リス族、ジップライン、材質、文化遺産